

表 43-5 わが国で現在使われているワクチン(2019年1月現在)

定期接種(対象年齢は政令で規定)
生ワクチン
BCG
麻疹風疹混合(MR)
麻疹
風疹
水痘
不活化ワクチン・トキソイド
DT(ジフテリア・破傷風混合)
DPT(ジフテリア・百日咳・破傷風混合)
IPV(不活化ポリオ)
DPT-IPV(ジフテリア・百日咳・破傷風・不活化ポリオ混合)
日本脳炎(乾燥細胞培養)
インフルエンザ
肺炎球菌(13 価結合型)
肺炎球菌(23 価多糖体)
インフルエンザ菌 b 型(Hib)
HPV(ヒトパピローマウイルス)(2 価)
HPV(ヒトパピローマウイルス)(4 価)
B 型肝炎
任意接種
生ワクチン
流行性耳下腺炎(ムンプス)
黄熱
ロタウイルス(1 価)
ロタウイルス(5 価)
不活化ワクチン・トキソイド
破傷風
ジフテリア(成人用)
A 型肝炎
狂犬病
髄膜炎菌(4 価)
定期接種の対象ワクチンを定められた年齢以外で受ける場合

上記以外に国家備蓄として痘瘡ワクチン、沈降インフルエンザワクチン(H5N1 株)がある。

わが国における予防接種の標準的スケジュールは、国立感染症研究所のホームページに最新版が掲載されている。

1 ● ジフテリア、百日咳、破傷風、不活化ポリオ

不活化の四種混合ワクチンであり、皮下接種する。通常 DPT-IPV [diphtheria(ジフテリア)-pertussis(百日咳)-tetanus(破傷風)-inactivated polio(不活化ポリオ)vaccine] ワクチンと称されている。接種はⅠ期とⅡ期に分かれ、Ⅰ期初回接種は、生後3~11か月の間に3~8週間隔で3回行う(生後3か月から4週間隔が標準)。Ⅰ期追加接種は、初

回接種終了後6か月以上の間隔において、生後12~17か月の間に1回行う。Ⅱ期はDTのみを11歳のときに1回行う。

2 ● 麻疹および風疹

弱毒生混合ワクチンであり、皮下接種する。通常MRワクチンと称されている。生後12~23か月に初回接種し(Ⅰ期)、5~6歳時(小学校入学前の1年間)に追加接種する(Ⅱ期)。

3 ● 結核

ウシ型結核菌弱毒株であるBCG(Bacille de Calmette et Guérin)を生後1歳未満(標準的には生後5~8か月)に、管針により経皮接種する。

4 ● 日本脳炎

不活化ワクチンであり、皮下接種する。接種はⅠ期とⅡ期に分かれ、Ⅰ期接種は生後6~89か月の間に初回接種2回(標準的には3歳児)、1年後に追加接種を1回行う(標準的には4歳児)。Ⅱ期はDTのみを標準的には9歳のときに1回行う。

5 ● インフルエンザ菌 b 型(Hib)ワクチン

結合型ワクチンであり、初回接種を、生後2か月以降7か月未満で開始し、4~8週間隔で3回、皮下接種により行う(生後3か月から4週間隔が標準)。追加接種は、初回接種終了後、7~13か月後に1回行う。

6 ● 小児の肺炎球菌ワクチン

13 価の結合型ワクチンであり、初回接種を、生後2か月以降7か月未満で開始し、4~8週間隔で3回、皮下接種により行う(生後3か月から4週間隔が標準)。4回目の接種は、3回接種終了後、60日以上の間隔をあけて1回行う。

7 ● ヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチン

遺伝子工学的にウイルス様粒子を作製して作ったワクチンであり、2価ワクチンと4価ワクチンがある。接種対象は小学校6年から高校1年の女子である。2価ワクチンは、初回接種ののち、1か月後と6か月後に1回、4価ワクチンは、初回接種ののち、2か月後と6か月後に1回、合計3回の筋肉内注射により行う。